

産地戦略

実施期間 令和5～6年度

実施主体 愛知県
都道府県 愛知県
対象地域 全域
対象品目 シクラメン（施設栽培）



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

該当するものに●を付けてください。

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

愛知県はシクラメンの主産地県であるが、シクラメンは植物体全体が商品であるため防除圧は野菜に比べ大きく、化学農薬による環境負荷が高い品目であると共に、農薬による防除作業が生産者の大きな負担になっている。特にヤガ類やアザミウマ類はシクラメンの最重要害虫であり、近年は薬剤抵抗性が発達し、防除が難しくなっていることや環境負荷軽減の観点からも化学農薬に依存しない防除手段が求められている。

本県シクラメン産地に、緑色（ヤガ類対象）及び赤色（アザミウマ類対象）LED防虫灯の導入とフェロモン及び粘着トラップによる発生予察の活用が進むことにより、ヤガ類及びアザミウマ類による被害が抑制されて、化学農薬の使用量が低減されることを目指す。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名			鉢上げ △							播種 ● 加温	鉢上げ △		
技術名	定期的な化学農薬の散布												

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名			鉢上げ △							播種 ● 加温	鉢上げ △		
技術名	緑色LEDの照射とフェロモントラップの発生予察(ヤガ類対象) 赤色LEDの照射と粘着トラップの発生予察(アザミウマ類対象) ヤガ類及びアザミウマ類の発生状況を確認して化学農薬を散布												

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6年度	目標R11年度	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	15.9	15.9	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.1	1.6	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0.1	1.6	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0.1	1.6	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学農薬のみの防除	▶ 緑色及び赤色LED灯を活用した光による物理的防除	化学農薬の使用回数の削減 薬剤抵抗性の発生リスク軽減
環境 省力	定期的な化学農薬散布	▶ フェロモン及び粘着トラップによる発生予察	化学農薬の使用回数の削減 薬剤抵抗性の発生リスク軽減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学農薬の使用回数（回）	25	▶ 21	
			▶	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

県内JA及び愛知県花き温室園芸組合連合会鉢物部会とともに開催する勉強会や栽培指導を通じて、産地に緑色及び赤色LED防虫灯照射技術に関する情報を提供して、技術の普及と定着を目指す。情報提供や技術指導にあたっては、本事業で作成した栽培マニュアルを活用する。

関係者の役割

関係者名	愛知県	県内JA	愛知県花き温室園芸組合連合会鉢物部会
役割	緑色及び赤色LED防虫灯照射技術の導入推進栽培指導	栽培指導、勉強会の開催、LED防虫灯購入ルートの確立	緑色及び赤色LED防虫灯照射技術を活用した防除の実践と栽培技術向上

その他